

2021.11.15

ウェーブ

時評



日韓、背景の複雑な心理

田中 均

たなか・ひとし 69年京大法学部卒。外務省経済局長、アジア大洋州局長、外務審議官を経て(株)日本総研国際戦略研究所理事長、(公財)日本国際交流センターシニア・フェロー。

上述したエンターテインメントの世界でも韓国には日本を追い越し世界に受け入れられたという誇りもあるのだろう。

日本と韓国の関係を改善していくことは難しい。困難な最大の要因は、歴史が培い両国民の間に根深く存在するに至っている複雑な心理だ。隣国同士であり、米国の民主主義同盟国でもあり、北朝鮮や中国に向き合う上で緊密な関係を構築しなければならないといった関係改善の合理的理由を探すのは簡単であるが、日韓の複雑な心理を変えていくには、相当な意識的努力が必要となる。

1965年に基本条約を結び日韓が正常化した後、日本の政・官・経済界は一致して韓国を支援しようとした。「漢江の奇跡」と言われた韓国経済のテーク・オフが可能にする上で、日本の支援は大きかった。日本には「これだけ韓

国を助けたのだから」という思いが残った一方、韓国には「歴史に鑑みれば日本の支援は当然」という心理が働いた。

その間、韓国は先進国経済として国際社会に仲間入りし、日本に追いつこうとしてきた。1988年のソウルオリンピックや2002年のサッカーワールドカップの2年のサッカーワールドカップの日本との共催はその象徴的意味合いを持った。おそらくこの時期に

韓国は「歴史を正しく認識すれば韓国の主張を聞いて当然」といった「甘え」を無くさなければならぬ。しかしこのような国民心理の変化が自然に生じるわけではない。必要な心理的変化を実現するためには、両国の指導者が、対等の関係として相手を尊重することから始めなければならない。

近代における日本の朝鮮半島に対する行動の背景には、中国の強い影響下にある朝鮮を自国の影響下に置かないと日本の安全は担保できないという認識があったのだ

1965年に基本条約を結び日韓が正常化した後、日本の政・官・経済界は一致して韓国を支援しようとした。「漢江の奇跡」と言われた韓国経済のテーク・オフを可能にする上で、日本の支援は大きかった。日本には「これだけ韓

国を助けたのだから」という思いが残った一方、韓国には「歴史に鑑みれば日本の支援は当然」という心理が働いた。

その間、韓国は先進国経済として国際社会に仲間入りし、日本に追いつこうとしてきた。1988年のソウルオリンピックや2002年のサッカーワールドカップの2年のサッカーワールドカップの日本との共催はその象徴的意味合いを持った。おそらくこの時期に

韓国は「歴史を正しく認識すれば韓国の主張を聞いて当然」といった「甘え」を無くさなければならぬ。しかしこのような国民心理の変化が自然に生じるわけではない。必要な心理的変化を実現するためには、両国の指導者が、対等の関係として相手を尊重することから始めなければならない。

近代における日本の朝鮮半島に対する行動の背景には、中国の強い影響下にある朝鮮を自国の影響下に置かないと日本の安全は担保できないという認識があったのだ

1965年に基本条約を結び日韓が正常化した後、日本の政・官・経済界は一致して韓国を支援しようとした。「漢江の奇跡」と言われた韓国経済のテーク・オフを可能にする上で、日本の支援は大きかった。日本には「これだけ韓

国を助けたのだから」という思いが残った一方、韓国には「歴史に鑑みれば日本の支援は当然」という心理が働いた。

その間、韓国は先進国経済として国際社会に仲間入りし、日本に追いつこうとしてきた。1988年のソウルオリンピックや2002年のサッカーワールドカップの2年のサッカーワールドカップの日本との共催はその象徴的意味合いを持った。おそらくこの時期に

韓国は「歴史を正しく認識すれば韓国の主張を聞いて当然」といった「甘え」を無くさなければならぬ。しかしこのような国民心理の変化が自然に生じるわけではない。必要な心理的変化を実現するためには、両国の指導者が、対等の関係として相手を尊重することから始めなければならない。